

## 令和7年12月定例会 代表質問 清川希代子議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。

### 「子どもたちの未来のための取組について」

○清川希代子 改めまして、皆さんおはようございます。

議長のお許しをいただきましたので、会派、日本維新の会、清川希代子が代表質問をさせていただきます。

私たち日本維新の会は、努力する人がきちんと報われる社会をつくるという機会平等の理念を大切にしています。生まれ育った環境で子供たちの未来が決まってしまうような社会を変えたい。教育の無償化や学び直しの支援を進め、全ての子供たちが自分の力を信じて歩いていける環境をつくるのが政治の果たすべき責任だと考えています。また、日本維新の会は、民意に基づく政治を原点にしています。国民の声が届かない政治ではなく、暮らしの中で生まれる心的心声を大切に政治であるべきと考えます。市民の皆さんの思いをまちづくりに反映することも私の役目だと思っています。そして、日本維新の会は、次世代への徹底した投資を掲げています。今の子供たちが将来、香芝に生まれてよかったと心から言える町にしたいという願いが私の政治の原点であり、今日の質問にもつながっています。

まず大項目1から、体験格差・教育格差について伺います。

家庭環境によって得られる体験が異なる現状があります。体験は、子供の心を震わせ、未来の選択肢を広げる力になります。どの子も同じスタートラインに立てるよう、具体的な取組を伺いますが、その解決策の一つとなり得る教育バウチャー制度についても伺います。やってみたい、挑戦したいという気持ちを応援できる香芝にするための仕組みが必要であり、香芝での検討状況と今後の方向性を伺ってまいります。

それでは、質問に入ります。

これまでも子供たちの体験機会や学びの環境に家庭によって差が生まれてしまう体験格差、教育格差の問題を取り上げてきました。やらせてあげたいのに難しいという声も実際に伺っており、見過ごせない課題です。

まず、市として、体験格差、教育格差をどの程度重く見ておられるのか、認識を伺いたいと思います。

以上、壇上からの最初の質問といたします。

○教育部長 失礼いたします。

まず、体験格差につきましては、それが家庭の経済状況や地域環境によって子供が得られる文化、スポーツ、自然体験などの機会に差が生じることを意味するとすれば、子供たちの成長や社会性の育成に影響を及ぼすものと認識しております。

また、教育格差につきましても、それが同様の理由によって学習機会や教育資源へのアクセスに差が生じることを意味するとすれば、将来の進路や社会参加に直結するものと認識しております。

いずれにしましても、家庭の経済状況や地域環境等により子供の機会が左右され、将来の格差を固定化する可能性があるという点においては、一定の課題があると考えております。

以上でございます。

**○清川希代子** 今のご答弁は一般論、概念的なお話でしたので、私のちょっと質問の仕方がよくなかったかなと思って、改めて確認させていただきます。

香芝市として、体験格差や教育格差が実際にどの程度生じているのか、市内の状況を伺いたかったんです。聞き方を間違ったというか、言い方が分かりにくくて申し訳ありません。例えば、習い事や塾に通っていない児童・生徒の割合とか、経済的な理由で文化やスポーツ活動を断念したケースなど、こうした具体的なデータとか傾向などを市として把握されているのか、そういうところを聞いたかったんですけれども、そのようなことは市としては把握されているのでしょうか。

**○教育部長** そういった実態の把握というのはいしておりません。

以上です。

**○清川希代子** まずは、現状を正確に把握することが不可欠だと私は思っております。香芝市として体験格差、教育格差の実態調査を早急に実施していただきたいと、具体的な調査をしていただくようにこちらはご要望とさせていただきます。

2つ目の質問です。体験格差、教育格差を縮めるための具体的な手だてとして、大阪市をはじめとした他の自治体での教育バウチャー制度、どんどん導入され始めております。香芝市においても導入の可否を検討する際には、この制度が果たし得る役割を正しく評価することが重要だと考えております。

教育バウチャー制度は、体験格差、教育格差を縮めるための有効な手段の一つになり得ると認識されているのでしょうか。その見解を伺います。

**○教育部長** 教育バウチャー制度につきましては、経済的に不利な家庭における体験格差及び教育格差を縮めることができる一方で、機会を得るために必要な全ての費用を賄うことができず、その制度設計によっては、結果的に適切な効果を生むことができないなどの課題もあると認識しております。

実際に教育バウチャー制度の導入に当たりましては、先行して実施している自治体において、それが有効な施策になっているのかなどの課題等を含め、実態を幅広く調査し、研究することが必要であると考えております。

以上です。

**○清川希代子** もちろん課題の整理は大切なんですけれども、体験格差、教育格差というのはもう待ったなしの課題だと思っております。先行自治体の調査を進める中で、香芝市ではどう生かせるのかというような視点も加えて検討を深めていただけたらと思います。

続いて、財源規模について伺います。

例えば大阪市では、教育バウチャー制度を市内の小学5年生から中学3年生までに拡大し、児童・生徒1人当たり月額上限1万円を補助しております。令和6年10月からは所得制限も撤廃され、事実上、対象学年全員が利用できる制度となっております。こうした実例を参考にしつつ、香芝市で同様規模の制度を仮に導入した場合の必要財源を具体的に把握することが不可欠だと考えております。

大阪市と同様に、対象を小学5年生から中3年生として月額1万円を補助した場合、本市では年間どの程度の財源が必要になると見込まれるのでしょうか。また、対象を中学1年生から中学3年生とした場合、さらに中学3年生のみに絞った場合の必要財源についても、それぞれ試算をお示しください。

なお、もし月額1万円ではなく、半額の5,000円とした場合は、単純に半額となる前提で伺います。

**○教育部長** 大阪市と同様の制度設計で本市において教育バウチャー制度を導入した場合、補助額のみで年間約4億6,600万円の財源が必要となり、事務費用等を含めるとさらに多額の財源が必要になると思われまます。

また、中学1年生から中学3年生までを対象とした場合は、補助額のみで年間約2億7,400万円、中学校3年生のみを対象とした場合であれば、補助額のみで年間約9,500万円の財源が必要となります。

以上です。

**○清川希代子** ありがとうございます。

大阪市と同等にしたら莫大な財源が必要ですね。具体的な財源規模を示していただいたことで、本市に合った制度設計を考える上で大変参考になります。大阪市と同規模の実施が難しいことは重々理解しているんですけども、だからこそ香芝市にふさわしい形でできるところから始める道が見えてきたとも感じております。

制度設計における対象学年について伺います。

教育バウチャー制度を導入する際には、財源規模や事務負担を踏まえ、対象学年をどこに置くかが持続可能な制度とする上で不可欠な検討項目となります。他自治体でも導入初期は学年を限定し、段階的に拡大する例が見られます。

そこで、伺います。

市としては今後、対象を中学生全員とするのか、あるいは中学3年生のみなど、対象を絞った形でも導入を検討していくお考えが少しでもあるのでしょうか。市の見解を伺います。

**○教育部長** 教育バウチャー制度につきましては、教育の自由度を高め、個々のニーズに応じた学びを支援する可能性がある一方で、制度設計のほか、財源の確保や教育の質の担保などについて慎重に検討すべき課題も多いと認識しております。

先ほど申し述べましたとおり、制度設計によってその効果が変わる可能性があるため、先行して実施している自治体の事例を含め、幅広く調査し、研究したいと考えております。

以上でございます。

○清川希代子 制度の課題や慎重な検討姿勢が示されましたが、対象学年をどう考えるかという点には具体的なお答えがございませんでした。

財源規模を踏まえれば、まずは中学3年生など対象を絞って始めることが現実的な選択肢だと私は考えています。今後、先行事例の調査を進める中で、ぜひ香芝市としての方針の検討をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

めげずに補助額の水準について伺います。

教育バウチャー制度を導入するに当たり、まずは財政規模に応じたスモールスタートすることも現実的な選択肢だと考えております。福岡市や千葉市のように対象を限定したり、所得制限を設けたりしながら段階的に進める方法も香芝市においては参考になると思います。仮にスモールスタートで導入する場合、補助額の上限をどの程度が現実とお考えでしょうか。

また、福岡市や千葉市のように所得制限を設けるなどの方法も含め、まずできるところから始めるという観点で市の見解を伺います。

○教育部長 繰り返しの答弁となりますが、制度設計によってその効果が変わる可能性があるため、先行して実施している自治体の事例を含め、幅広く調査研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○清川希代子 補助額の水準についての具体的なお答えはございませんでしたが、財源とのバランスを見ながら、香芝市として無理のない形で、まずできるところから始められるよう、今後の検討に期待したいと思います。

次に、市長に伺います。

市長は、小・中学校等新入生の標準服無償化事業など、子供たちや子育て世帯を支える独自の取組を積極的に進めてくださいました。入学時の大きな負担を軽減するこの制度は、多くの保護者から感謝の声が寄せられております。市長の子育てを応援したいという気持ちを私は感じております。

次の一歩として、教育バウチャー制度導入を前向きに検討していただきたいと思いますと考えております。教育バウチャー制度導入について、市長ご自身はどのようなお考えをお持ちでしょうか。これまで子供たちを支えてこられた市長の視点からご見解を伺います。

○市長 ご提案のいわゆる教育バウチャー制度に関しましては、その名称はともかくとして、同様の取組については私も関心を持っているところでございます。一方で、例えば大阪府において実施されているような規模で本市において実施することは、財政上の観点から実現することは困難であると考えてございます。

そのことを踏まえまして、同様の取組について、対象となる児童や生徒を絞ってでも実施することが有意義であると考えられる場合には、実現に向けて努力してまいりたいと考えてございます。まず、教育部と子ども家庭部のほか、総務部財政課において検討していくこ

とになろうかと思えます。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

市長から教育バウチャー制度について関心を持っているというお言葉をいただきまして、うれしく受け止めました。また、大阪市のような大規模な制度は財政的に難しいという現実を踏まえながらも、対象を絞った形であれば実現に向けて努力したいというような前向きな姿勢も示していただけたのかなと私は受け止めました。

そして、市長がおっしゃったように、名称につきましては、どのような呼び方であっても構わないと思います。教育バウチャー制度ということにこだわっているわけではございません。大切なのは、子供たちに実際に確実に支援が届く仕組みとして実現することであると考えておりますので、子供たちのやってみたい、挑戦したいという後押しできるような、子供たちの未来を支える仕組みをつくることを私は願っております。

市長の答弁から、子供たちの可能性を広げる新しい支援に向けてちょっと一步を踏み出せたかなと、意外と前向きな答弁いただけたかなと、ちょっと手応えを感じているんですけど、今後教育部であったり子ども家庭部、総務部において検討を前向きにさせていただけるというご答弁、ありがとうございます。ぜひとも前向きにご検討していただくようによろしくお願いいたします。

続きまして、中項目3です。物価高騰が長期化し、食材費が上昇し続ける中、学校給食は子供たちの健康を守るだけでなく、多くの家庭にとって生活を支える基盤にもなっています。

国では令和8年度から小学校の給食費無償化を進める方針が示され、現時点では正式決定前ですが、児童1人当たり、今のところ月4,700円の補助が見込まれております。

一方、本市の給食費は小・中学校とも月5,500円で、そのうち保護者負担が4,500円、市の独自補助が1,000円という現状です。国から仮に月4,700円の補助が開始された場合、現行の5,500円との差額800円が生じます。この800円について、本市としてどのように対応されるお考えでしょうか。現時点では、市が差額分を引き続き補助する方向で検討しているという理解でよろしいでしょうか。

○教育部長 国による小学校の給食費無償化の制度設計が示されていないので、明言はできませんが、仮にそのような補助が行われた場合、子育て世代の家計負担軽減策として、国の補助額と小学校の給食費の差額分については本市が補助する方向で、関係部室において検討を進めているところでございます。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。前向きなご答弁をいただきました。ありがとうございます。

国の制度が固まっていないこの段階でも、差額分の補助を市として検討しているという姿勢が示されましたので、大変心強く感じております。制度が示された際には、市として迅

速かつ確実に対応していただけることを期待いたします。

次の質問です。

今回の国の無償化は小学校のみが対象となっております、中学校は対象外です。小学校のみ無償化、中学校は有償という負担の段差が生じることについて、本市としてどのように考えておられるでしょうか。

また、中学校分の無償化もしくは負担軽減について、市としてどのような方向性をお持ちか、伺います。

**○教育部長** 本市をはじめ各自治体では、給食費の無償化など様々な取組が進められておりますが、共通する課題は地域格差の是正と制度の持続性を担保するための財源確保にあります。

学校給食の意義を考えれば、自治体の判断や財政状況によって差が生じることや事業の継続性が損なわれることは好ましくないと考えており、令和6年12月香芝市議会定例会における三橋市長の答弁にもございましたが、学校給食の無償化という施策については、国や奈良県といった広域行政の責任において速やかに実施されるべきものであるため、そのための要望は続けているところでございます。

中学校給食の無償化につきましては、令和7年2月17日の衆議院予算委員会における、可能な限り速やかに実現したいとの首相答弁を踏まえ、現在国において検討が進められているところではございます。

現時点におきましては、国の制度設計の進展を待つと同時に、保護者負担の継続的な軽減を図るための補完的な対策として、令和7年度と同額の補助、月額1,000円を継続し、議員お述の段差の緩和を図ることを検討しております。

なお、同学年において差異が生じているのであれば、公平性を欠いていると考えられますが、小学校と中学校で給食費に違いがあること自体に公平性を欠いているとは考えておりません。

以上でございます。

**○清川希代子** 承知いたしました。国の動向を踏まえつつ、本市としても保護者負担の軽減に引き続き取り組んでいただけることを期待しております。

次に、国の小学校給食費無償化が実現した場合でも、本市独自のさらなる負担軽減策を検討することは可能ではないでしょうか。例えば現行中学3年生3学期のみ無償化を通年の無償化へ拡大であったり、中学校の給食費の独自補助分の増額1,000円を少し補助額を増やすとかなど、保護者間に格差のない支援の拡充について市の見解を伺います。

**○教育部長** 国による小学校の給食費無償化が実施された場合、本市独自の子育て世帯の家計負担軽減策として、小学校給食については国の補助額と給食費との差額の補助、中学校、幼稚園、認定こども園及び保育所給食については令和7年度と同額で中学校1,000円、幼稚園600円、認定こども園1号認定児800円、保育所及び認定こども園2号認定児1,200円、いずれも月額でございますが、その補助を継続する方向で関係部室において検討を進めて

おります。

以上です。

○清川希代子 小・中以外の補助のこともお答えいただきましてありがとうございます。

本市独自の補助について継続の方向が示され、こちらはありがたいこととあります。

ただ、国制度導入後の新たな財源の活用については、さらに前向きな検討が必要だと考えておりますので、ぜひとも子育て世帯にしっかり届く支援の拡充を期待しております。

続きまして、令和8年度に国が小学校分4,700円補助した場合、現在の市独自補助1,000円のうち、小学校分200円が国に置き換わる計算になります。単純計算で小学生を約4,500人といたしましたら約990万円となりますが、この浮いた財源を中学校の給食費負担軽減に充てることは可能でしょうか。

さらに、現在の中学校3年生3学期のみの無償化には約700万円かかっております。そこにこの990万円を加えると約1,690万円となります。これを活用して中学校3年生の2学期も無償化とするような負担軽減の拡充は理論的に検討可能でしょうか。

○教育部長 国による小学校の給食費無償化の制度設計が示され次第、その制度設計に基づき、財源の活用を含め、具体的な方針の策定に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○清川希代子 よろしく申し上げます。

次に、令和8年度に国からの小学校の給食費に対して月額4,700円の補助が実施された場合、現在の保護者負担を踏まえると、先ほども申し上げました1,000万円近くの財源が生じることとなりますが、仮にその財源を中学校の給食費に充当した場合、保護者の負担はどのようになるのか、試算はお願いできますでしょうか。

○教育部長 繰り返しの答弁になりますが、国による小学校の給食費無償化の制度設計が示され次第、その制度設計に基づき、その財源の活用を含め、具体的な方針の策定に取り組むものでございますが、仮にその財源を中学校の給食費の補助に充当した場合、中学校3年生の3学期を除く保護者の負担は月額4,100円程度になると考えております。

以上です。

○清川希代子 試算してくださってありがとうございます。試算として、保護者負担が月4,100円程度になるという見通しを示していただいた点、ありがとうございます。これを今後の具体的な制度設計の中でしっかりと負担軽減、または補助の拡大に結びつけていただきたいと思います。

続きまして、市長に伺いますが、給食の質を確実に向上させるためには追加的な財源確保が必要ですが、その際に保護者負担を増やすべきではないと私は考えております。市長が掲げる子育て世代を全力で支えるという方針からしても、給食費の引上げは行わない、保護者負担は増やさないという姿勢を継続されるお考えか、伺います。

○市長 本市の給食費及び補助額につきましては、国の動向や経済情勢、本市の財政状況等を踏まえ、適時適切に判断していくべきでございますので、今後絶対に保護者負担額を増加

させることがないと言い切れるわけではないと思います。一方で、令和7年4月に学校給食費を改定する以前は、デザートや果物の提供回数が減少するなどの影響があったということで私も承知をしてございます。給食の質にも関わるところでございましたので、給食費の改定を行いました。その改定時には保護者の負担額を実質的に増加させないように、本市として補助事業を充実させたところであり、このように私の基本的な考え方といたしましては、このときから変わりなく、保護者負担額はなるべく増加させないことが望ましいと考えているところでございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

市長から、保護者負担はなるべく増加させないことが望ましいというお気持ちが明確に述べられました。ありがとうございます。また、今年4月から保護者の負担が実質増加しないように1,000円補助してくださっています。ありがとうございます。

この実績を踏まえて、今後も市長の基本姿勢が子育て世帯に寄り添うものであることが伝わってまいりました。今後もその姿勢を貫いていただき、給食の質の向上であつたり保護者負担の軽減が両立する香芝市の実現を心から期待しております。よろしく申し上げます。

学校給食は、子供たちの健康と学びを支える教育の一部です。国の無償化の動きを追い風として、本市としても新たな負担軽減策の検討と併せて、給食の質をさらに向上させていただくことをこちらは要望させていただきます。

こちらで大項目1を締めくくらせていただきます。

#### 「香芝市のシティープロモーションと市民参画について」

○清川希代子 続きまして、大項目2でございます。

現在、新たなカッシーグッズの製作、販売を進めているとお聞きしております。カッシーはただのキャラクターではありません。今日まで市民の生活の中にそっと寄り添ってきた香芝のシンボルであると考えております。市が製作したカッシーグッズを手にする機会は、これまでイベントに参加したら頂くことができる非売品の景品、ノベルティーがほとんどでした。そのカッシーグッズを今改めて市が製作し、販売しようとしているその目的と、それに至った経緯を伺います。

○市民環境部長 カッシーは平成13年、2001年10月、市制施行10周年を記念し、誕生いたしました。20年以上市民の皆様に親しまれており、カッシーグッズを通じて市民の愛着の醸成や市外へのシティープロモーションの効果も大きいと考え、製作に至ったものでございます。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

ここで1つ確認したいことがございます。現在販売されているグッズの中にカッシー縫

いぐるみとカッシーはっぴがあるんですけども、まずカッシー縫いぐるみですが、市内の事業者さんが香芝のためにと動いてくださったことから生まれたものだと伺っております。製作された当時、市は積極的に関与、協力されたのかどうか、伺います。

**○市民環境部長** カッシー縫いぐるみは、香芝産靴下生地で作るオリジナルキャラクター縫いぐるみが香芝市地域ブランド、カシバプラスに認定されたことを契機に、市内外への本市のPR及び愛着の向上につながるものとして、市内事業者が平成30年頃に販売されました。カッシーのイラスト利用に係る申請において、市への販売等の相談がございましたものの、市が積極的に関与したものではありません。

以上です。

**○清川希代子** 販売等の相談もあったと。市が積極的に関与しなかったにもかかわらず、カッシー縫いぐるみを製作して販売してくださったことは、私はそこに香芝への思いがあると感じております。その事業者さんには本当に感謝しかありません。一方で、その当時から行政と市民さんと同じ方向を向いて歩めていたらと悔やまれるところもあります。

続きまして、カッシー縫いぐるみの仕様、価格、販売実績について伺います。

**○市民環境部長** カッシー縫いぐるみでございますか。ちょっと今清川議員の議席、5番議席のところに置いておられるのがカッシーの縫いぐるみでございます。この縫いぐるみの仕様ですが、高さ、約15センチ、幅も大体15センチとなっております。ふたかみ文化センターでの販売価格は税込み1,100円でございます。これまでに約500体が販売されました。

以上でございます。

**○清川希代子** 製作された約500体ですね、六、七年経過して、間もなく、ごく近い将来、完売を迎えようとしています。一つ一つ手に取ってくださった方々の笑顔が浮かんでくるんですけどね。もうすぐカッシー縫いぐるみが買えなくなってしまうというのは非常に寂しく思っております。

続いて、先日の11月23日に開催されましたかしばのしごと展において、カッシー縫いぐるみと、市が昨年のかしばのしごと展から販売しているカッシーのはっぴがあるかと思えます。それぞれ何点販売されたのか、その日、11月23日に販売された具体的な販売数をお示してください。

**○市民環境部長** 11月23日、しごと展での販売でございますが、カッシー縫いぐるみが2体、はっぴはゼロ枚の販売ございました。

以上です。

**○清川希代子** ありがとうございます。

私もかしばのしごと展へ行きました。子供たちをはじめたくさんの方々が、もうごった返すようにたくさんの方が来ておられました。そのような中でも、縫いぐるみが2体とはっぴゼロ着という状況だったと。これは誰かを責めたいわけではないんです。今のやり方だけでは市民のニーズに届いていないという大事なサインだと受け止めるべきではないでしょうか。

このような状況の中、新しく製作されるカッシーグッズの種類と数量について伺ってまいります。

○市民環境部長 新しく製作しているグッズにつきましてですが、今現在6種類のカッシーグッズを製作しています。製作している種類と数量は、コルクコースターが280個、ニット製のトートバッグが400個、マンホール型マグネットが300個、タオル生地の中着袋が500個、壁かけタオルが600枚、帆布ポーチが500個となっております。

今後は、粗品程度のグッズにとどまらず、ある程度の価格であっても購入したいと思われるようなものも含めて製作を検討し、効果的なプロモーションにつなげていきたいと考えてございます。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

市として、粗品レベルにとどまらない本気のグッズ、これから本当に考えていただきたいと思えます。前向きな姿勢を示されたことはうれしく思っております。

一方で、今回既に製作された6種類のグッズですね、こちらはどのように売れる形で市民の手に届けていくのか、今まさに問われていると思えます。

販売価格と、その価格をどのような根拠で設定されたのかについて伺います。

○市民環境部長 販売価格でございますが、原価に販売手数料相当分を加えた金額を設定する予定でございます。種類ごとに税込み250円から500円までの販売価格になるであろうと予定してございます。

以上です。

○清川希代子 250円から500円ということで、手に取りやすい価格にいただいたことは市民の皆さんにとってはうれしいことだと思えます。

続きまして、6種類のカッシーグッズなんですけれども、納品時期がそれぞれ異なると伺っておりました。そのため、もともと納品され次第、順次発売を開始するとのお話を伺っていたんですけれども、私はこの点に販売戦略としての弱さを感じておりました。せっかく新しいカッシーグッズを販売するのであれば、ただ販売を始めるのではなくて、市民の期待を高めて購買意欲を喚起するような、そういったプロモーション設計が必要であると考えております。

6種類のグッズが個別に納品されるという状況を踏まえた上で、販売開始時期をどのような戦略で設定されるのか。また、販売場所はどこを想定しておられるのでしょうか。

○市民環境部長 まず、時期のことをお尋ねになったと思えます。おっしゃるように、でき次第、初めは少しでも早めに届けようかということも考えていましたが、ちょっと周知の方法にも難があるかなと。五月雨的にばらばら出るよりは、ある程度まとまってから周知したいと考えております。

次に、販売場所の質問をいただいたかと思えます。販売場所は、現在カッシー縫いぐるみなどを販売しているふたかみ文化センター1階の二上山博物館内での販売をすることで調

整を進めてございます。販売時期でございますが、大体令和8年2月頃であろうかと考えております。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

カッシーグッズの販売場所なんですけれども、指定管理施設である二上山博物館1か所のみで販売する。従来から縫いぐるみを扱ってこられた実績があるのは理解しますが、しかし市が公式に製作される6種類の新しいグッズ、私もですけれども、カッシーが大好きで、カッシーのグッズ販売を待ち望んでいた側からすると、販売場所を1か所に限定することは、購入機会の確保という観点からは十分とは言えないのではないのでしょうか。販売場所を指定管理であるふたかみ文化センター内の二上山博物館1か所に限定する理由は何なのでしょうか。

なぜこの部分にこだわるかといいますとね、二上山博物館は少し入りにくい雰囲気だとか、カッシーグッズが売られているか分かりにくい、グッズの購入目的だけでは入館をためらうといったお声があるからです。

今後、市役所や市内の別の施設やイベントでの販売など、販路の拡大を検討はされるのでしょうか、市の見解を伺います。

○市民環境部長 市役所においては、購入者の利便性や公金収納の方法、またグッズのPR効果などを総合的に勘案し、検討してまいります。イベントでは、市内外問わず随時販売を行います。その他の販路については、グッズの販売実績や販売に係る経費など、その需要や費用対効果を見極めた上で検討する必要があると考えてございます。

以上です。

○清川希代子 市役所での販売などについては、レジの対応、お金のやり取りなど、課題があるというも伺っておりますので、そういうことは理解をしております。しかし、カッシーグッズを広く届けていくためには、販売の機会を増やして市内外の人の手に取っていただける仕組みづくりが必要だと感じております。イベントなどということもおっしゃってくださっていたので期待をしております。

そこで、いろいろな課題を一気に解決できて、かつシティープロモーションとしても大きな効果が見込める具体的な提案をさせていただきます。グッズ対応の自動販売機、ボードステーションというものがございまして、こちらの導入です。ボードステーションは、多品種、サイズ違いのグッズを取り扱うことができ、現金、IC・QR決済にも対応していて、在庫管理や売れ筋データの収集も容易で、PDCAを回しながら販売の改善ができる点が特徴です。また、市役所や福祉センター、ふたかみ文化センター、来春オープンするスポーツ公園のプールなど、複数の拠点に設置もできる。また、ふれあいフェスタや香芝ウォークなど、屋外で行われるイベントなどにも移動することができますので、とてもいいものではないかと思っています。

さらに、カッシーグッズの自動販売機といったら、話題性が高くて、香芝市のPRとして

非常に強力な武器になると私は考えております。新聞やテレビ等のマスメディアによる報道も期待でき、一気に多くの方へ認知を広げる効果が見込めると思います。

そこで、伺いますが、こうしたグッズの自動販売機、特にボードステーションのような仕組みを活用して市役所や公共施設などで販売することについて、課題解決とシティープロモーションの観点から導入を検討するお考えはあるでしょうか。

**○市民環境部長** 現状ではカッシーグッズの種類が豊富でないことから、今すぐに導入するのは難しいと考えております。今後、グッズが充実され、カッシーグッズの需要の高さ、また販売に係る初期費用やランニングコストなどの費用対効果を検証した上で、導入の是非について検討してまいりたいと考えてございます。

以上です。

**○清川希代子** 最後、検討していきたいというお言葉がありましたので、こちらはありがとうございます。

でも、今現状、販売場所が二上山博物館、常設のところは二上山博物館の1か所に限られておりますので、せっかくのポテンシャルを小さくしてしまうのではないかと危惧しております。グッズが売れたら検討しますじゃなくて、売るための環境を整えるからこそ売れるのだと私は思っております。その思いから、私は先ほど自動販売機という新しい選択肢を提案させていただきました。ぜひ挑戦する市の姿、私は見たいと思います。二上山博物館だけで販売するよりも、カッシーがラッピングされたかわいい自動販売機を設置したほうが売れる数は増えると思います。ぜひとも前向きに検討していただきたく思います。よろしく願いいたします。

続きまして、カッシーグッズの販売開始に当たり、周知や広報は具体的にどのような方法で行われるのか、伺います。

**○市民環境部長** グッズ販売に係る周知でございますが、令和8年2月発行の市の広報紙及び公式LINEでの案内を予定しております。また、香芝市役所及びふたかみ文化センターにおいてポスターの掲示を予定しております。

以上です。

**○清川希代子** ありがとうございます。ポスターの掲示してくれるということで、ありがとうございます。

ふたかみ文化センターと市役所ですかね。ぜひ、これ要望ですけど、総合福祉センターとか保健センターなんかも候補に加えていただけたらと思います。これは要望です。

また、香芝市には公式のユーチューブもございます。カッシー自身が出てくるようなユーチューブの動画など、子供たちもわくわくするような発信を期待しておりますので、よろしく願いします。

次に、市が製作する公式グッズは、担当課だけではなく、市の職員さんも愛着を持って市全体でPRすることが重要だと考えますが、市の認識を伺います。

**○市民環境部長** 本市の職員である以上、カッシーやカッシーグッズへの愛着は高くある

べきだと考えます。職員全体にもこのことを周知し、各課における催事等でのPRにもご活用いただきたいと考えております。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

職員さん自身がカッシーを好きになってくれること、それが本当にPRになると思います。どうか市全体でカッシーを盛り上げていただきますようお願いを申し上げます。

次に、カッシーグッズを販売するに当たり、ターゲット層を伺います。

○市民環境部長 現在製作しているグッズは、子育て世帯をターゲットとして機能性を考慮したものとして考えております。

以上でございます。

○清川希代子 子育て世帯をとのことですが、グッズのラインナップから見たらそうだろうかと推測できます。私は、全ての世代という答弁を期待しておりました。最初は子育て世帯を想定していても、最終的には全ての世代へと広げていくんだという、将来の前向きで力を入れていく姿勢を示していただきたかったのですが、再度市の見解を伺います。

○市民環境部長 すみません。先ほど、カッシーのはっぴについてのご質問をいただいたところで、ちょっと私の答弁が不十分であったと思いますので、すみません、ちょっと追加で答弁させてください。

カッシーの子供用のはっぴでございます。これについて、まず経緯や製作枚数や販売枚数についての答弁が抜けたかなと思いますが、令和6年11月に開催されたかしばのしごと展で、体験に来てくれた子供たちに着てもらうこと及び販売することを目的に作製しました。作製部数が少なくなればなるほど1着当たりの単価は増加することから、ある程度まとめた部数として100着作製し、販売価格は原価とほぼ同じ2,700円としてございます。令和7年9月に他の議員さんから売れてない旨のご指摘がございましたが、その時点では本市には観光協会等がないために、効率的に販売手法を検討していたところであり、実際に行事等に際して販売するなどしたところ、61着が販売できております。大人用のサイズも作製して販売してほしいという声もいただいております。はっぴの作製については、それにより効果的なプロモーションを実施することができると考えております。

すみません、続きまして、今いただきましたカッシーのターゲット層をなぜ子育て世帯なのかということについてのご答弁でございますが、カッシーは子供の人気が高いことから、まず今回のグッズについては子育て世帯を対象にしたものでございます。今後製作するグッズについては、幅広い世代を対象としたものも含め、幅広く検討したいと考えます。

以上です。

○清川希代子 まず最初は子育て世帯であるけれども、今後は子育て世帯に限らず、幅広い世代を対象としたものとしていただけるということだったので、ありがとうございます。よろしく申し上げます。

今回、カッシーグッズの製作や販売について伺っておりますけれども、その背景には市民

の方の大切な声があります。香芝市には、市が販売のためのカッシーグッズを製作する前から、自主的にカッシーを広めて、カッシーグッズを製作して、香芝市の魅力を香芝だけじゃなくて市内外に発信してこられた市民の方々がいらっしゃいます。市におかれましては、こうした市民の皆さんの積み重ねや活動を今後の魅力発信の基盤として丁寧に位置づけていただきたいと思います。

これ追加で聞きたいんですけどね、今回のカッシーグッズ6種類作られましたけれども、市民さんの声は聞かれましたでしょうか。

**○市民環境部長** 本来聞く機会を設けるべきであるかとは思いますが、今回は残念ながら聞けておりません。

以上です。

**○清川希代子** ぜひとも今後は市民の皆さんの思いを、カッシーグッズに対する思い、ぜひとも大切に扱っていただいて、ぜひとも市民の皆さんのお声を聞いていただきたいと思います。よろしくお願いします。

そして、今後の展望として、市内事業者と連携したコラボ商品の作製やふるさと納税返礼品への登録の可能性について、どのように考えているのか、伺います。

**○市民環境部長** 令和7年8月より、ふるさと納税返礼品の登録につながる新商品開発について、高い補助率でその開発を支援してございます。こうした補助金を活用していただきながら、市内事業所と連携していきたいと考えております。

以上です。

**○清川希代子** 今はまだふるさと納税返礼品にカッシーの縫いぐるみ、売っておりますカッシーの縫いぐるみがあるんですけども、近い将来完売いたします。

返礼品全般に言えることなんですけれども、補助金も活用いただきながら香芝の事業所さんと一緒にカッシーの世界も広がることを期待しておりますので、私はカッシー縫いぐるみを途絶えさせてほしくないなと思っておりますので、こちらの検討のほうをお願いいたします。

そして、先ほどカッシーはっぴのことを追加でご答弁いただきましたけれども、私、かしばのしごと展で何着売れたというところだけ聞いただけだったので、十分答弁としては足りておりました。ありがとうございます。

次は、今回のカッシーグッズ6種類ですね。これまでにない本格的な展開となります。であれば、今年度だけではなくて、来年度以降どのように事業を育てていくのが重要だと考えております。来年度の予算の使途、販売目標、KPIの設定、今後の展開方針について、令和8年度、先のことにはなりますけれども、具体的にどのように考えておられるのか、伺います。

**○市民環境部長** カッシーグッズの販売目標としましては、これ予算を認めてもらえるという前提の答弁となりますが、令和8年度において、令和7年度に製作したグッズの30%程度の約30万円を目標としてございます。今後の販売状況やカッシーグッズに対する市民の

皆様の声を聞きながら、令和8年度以降の計画を立て、ブラッシュアップしていきたいと考えます。

以上です。

○清川希代子 来年度の販売目標について、令和7年度製作分の30%、約30万円との答弁でしたが、今回のカッシーグッズは6種類、約2,500個、平均単価は350円としても、約90万円から100万円の販売のポテンシャルがあります。そのうちの30%のみと目標とされるのは控え目過ぎる設定かなと私は考えましたけれども、30%なので、70%は在庫を抱えるのかなというふうにも思っています。

この販売目標30万円という設定は妥当なのでしょうか。また、カッシーを育てていくという観点から、より高い目標を掲げる観点はないのでしょうか。

○市民環境部長 本格的なカッシーグッズの販売が今回初めてでございます。また、令和6年度の葛城市のマスコットキャラクターの販売実績、13種類で7万円であることから、販売目標が決して低いとは考えてはございませんが、なるべく多くの方に導入いただけるよう広報や販路拡大に努めていきます。

いずれにしても、市としては、これらの取組が営利事業として実施するわけではないことに留意し、例えば子供向けのシールなどの安価なものについては、行事等において無償で配布することも予定しており、効果的なプロモーションをすることができるかどうかという点に焦点を当てて事業を展開していきたいと考えてございます。

以上です。

○清川希代子 ご丁寧にご説明していただきましたけれども、葛城市のこともおっしゃっていただきましたけれども、令和6年度の実績ということで、葛城市では今年度、蓮花ちゃんの縫いぐるみ大小を作製されまして、とても人気で、ふるさと納税では完売もしております。そういったところがありますので、令和6年度との比較は妥当ではないんじゃないかなと思います、といったところは期待させていただきます。

続きまして、全国で愛されているキャラクター、例えばくまモンとか。ふなっしーとか、最近ではミャクミャクなんかもそうなんですけれども、どれもデザインだけではない総合力が成功につながっていると思います。物語があって、発信力があって、戦略があるから成功したのではないのでしょうか。私は、長年市民に愛されてきたカッシーもまだまだ引き出し切れていない可能性があるかと信じております。

そこで、市長に伺います。

カッシーを香芝市のブランドとして育てていく上で、どのような効果を描いておられるのか、市長のご所見を伺います。

○市長 カッシーは、本市の市章をモチーフにしながらか릭터化したものでございまして、カッシーそのものであったり、そのグッズにつきましては、香芝市への愛着の醸成や市内外への本市のプロモーション施策に効果的に活用することができるものと考えてございます。

一方で、カッシーの認知度は、市内では高いものと認識してございますが、市外では、全国的にもその知名度、認知度というものは低い現状でございます。奈良県内におきましても、他の市町村のキャラクターと比較して突出した知名度もないというのがこれまででございます。

今後はカッシーを有効に本市のプロモーションで活用するために、そのグッズ等の充実もしながら、それを有効に活用できるような施策を体系的に行っていきながら、市内外における行事等を通じてカッシーを活用することによって、カッシーであったり本市を効果的にプロモーションしていくことに力を入れていきたいと考えてございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

ただいまのご答弁、カッシーをPRにもつなげていただくとすることは私の思いでも同じでございます。

市長、9月の香芝ウォークのときにカッシーグッズについてお話ししたことを覚えているでしょうか。マグカップとか文房具とかTシャツとか、そういうふうな、こういうのがあったらいいよねって、市民さん喜んでくれるよねっていうふうに楽しくお話をさせていただいたことを私は覚えております。市長の楽しそうな笑顔、覚えております。

そういうふうに、やっぱり市長、カッシーは香芝にしかない私たちの大切な本当に存在なんです、市長の温かい後押しがあるかないかで、カッシーのこれからの展開、未来が大きく変わってまいりますので、ぜひともカッシーグッズに力を入れていくようお願いいたします。よろしく申し上げます。

続きまして、時間が、中項目2、サヌカイトに行きます。

サヌカイトの澄んだ音は、1/f ゆらぎに近いとも言われており、聞く人の心を静かに整える不思議な魅力がございます。そのサヌカイトが二上山の麓で採れるという事実は、香芝ならでの大切な物語だと感じています。ほかの地域では、楽器や風鈴などの商品も行われておりますが、香芝のサヌカイトももっと多くの人に魅力を届けられると考えております。

そこで、伺いますが、このサヌカイトの特性を市としてどのように捉え、今後魅力発信にどう生かしていくお考えなのか、伺います。

○市民環境部長 サヌカイトは、全国的にも限られた地域でのみ採掘される珍しい石であり、本市特有の地域資源と言えます。二上山博物館においてその原石が購入できることから、市内事業者との連携による新たな製品の創出に期待したいと考えております。

以上です。

○清川希代子 見事に私は1/f ゆらぎがスルーされていて、面白いんですけどね。まあいいです。

サヌカイト、香芝ならでの地域資源として捉えておられるということなので、ぜひとも原石の販売だけにとどまらず、サヌカイトの魅力、香芝市としてPRしていただけたらと思います。

続きまして、サヌカイトの魅力を市内外にも届ける手段として、ふるさと納税の返礼品へ

の登録が大きな一歩になります。

現在進めておられるサヌカイトアクセサリーのふるさと納税返礼品への登録について、その進捗状況と今後のスケジュールを教えてください。

**○市民環境部長** サヌカイト製品につきましては、令和7年9月に総務省へふるさと納税返礼品としての指定申出書を提出し、その適合性が確認されました。寄附募集に向け、ポータルサイトへの掲載準備を行っていましたが、昨夜から一部のポータルサイトではもう既に掲載されております。それが確認できました。

以上でございます。

あとは、今後のことを聞かれましたかね。

**○清川希代子** ありがとうございます。

昨夜からもうポータルサイトにも載っているということで、進んでいったということなので、もうご答弁としては大丈夫です。ありがとうございます。

この香芝の魅力がふるさと納税の返礼品として市から全国に向けて動き出したのだと、うれしく思っております。サヌカイトは特別な資源でありますので、これから全国に広まっていくのを本当に期待をしております。だからこそ、返礼品として掲載されるだけでなく、どれだけ多くの方の目に触れて実際に手に取っていただけるか、これが大きな鍵になると考えております。サヌカイトは香芝の物語そのものであり、もっと多くの方に知っていただきたい大切な地域資源であります。

サヌカイトの販売場所について、現在の二上山博物館だけではなく、イベントや商業施設、地元店舗など、香芝の町全体で手に入れる機会を広げていくことを検討はされているのでしょうか。

**○市民環境部長** サヌカイト製品は、本市の地域資源を活用した貴重な商品であるものの、民間事業者が製造販売しているものであることから、その販路拡大については各事業者様において判断いただくことになります。本市としては、ふるさと納税返礼品としてその魅力を積極的にPRしてまいります。

以上でございます。

**○清川希代子** 理解いたしました。

ふるさと納税返礼品として登録されたサヌカイトのアクセサリーなんですけれども、私今日もピアスと指輪をしております。こちらのアクセサリーね、香芝ならでの魅力が本当に詰まっております。これがサヌカイトって、驚きと感動が起こると思います。まずは、実物を見ていただきたいと私思っております。

現在、市役所の1階のロビーにあるあの棚、あのスペースですね、あの一画を活用してサヌカイトアクセサリーの現物を見本として飾っていただくことはできないのでしょうか。実際に触れられないけど、見ていただけるような場があったらいいなと思うんですけれども、このことはいかがでしょうか。

**○市民環境部長** 1階ロビーでございます棚の件でございますが、香芝の恵みと題して、主

にふるさと納税の返礼品を紹介させていただいております。今回、新たに登録されたサヌカイト商品でございますが、そのPRにもつながりますので、前向きな検討をいたします。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。ぜひともよろしく願いいたします。飾ってください。

続きまして、カッシーは香芝の顔でございます。サヌカイトは香芝の宝であります。この2つを一体的に発信できれば、もっと香芝を魅力的に伝えることができるのではないのでしょうか。今後、香芝にしかできないカッシーとサヌカイトを一体的に発信するプロモーションについて検討されているのか、伺います。

○市民環境部長 カッシーとサヌカイトを組み合わせたシティープロモーションについては、現在のところ企画しているものはございませんが、サヌカイト以外にも様々な地域資源が存在しますので、それらをうまく活用し、カッシーと共に本市のよさを発信していきたいと考えております。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。ぜひとも発信してください。よろしく願いいたします。

続きまして、まちづくりパートナー制度についてでございます。

この制度は本来、市民の皆さんが香芝のまちづくりに関わりたい、協力したい、自分の得意分野を役立てたいという思いで登録されているとても大切な仕組みのはずでございます。しかし、実際には、制度があるにもかかわらず、登録したのに一度も声がかからない、全然活用されていないというご意見が私も市民の方々から伺いました。制度が眠ったままでは、市民さんの思いも眠ったままになってしまいます。だから、今日ここで取り上げさせていただきます。

まちづくりパートナー制度の現状についてお示してください。

○市民環境部長 まちづくりパートナー制度の現状についてでございますが、まず令和7年11月末時点でまちづくりパートナー制度への登録者数は47名となっております。

登録の際に、協力できる分野として法律、防災、防犯、教育、観光、歴史など11の分野の中から1つ以上を選択していただいております。これまでの活用実績としましては、市の委員会や附属機関である審議会などに委員として参画していただいております。

以上です。

○清川希代子 活用されていたのはもう随分過去のことなのかと思います。やっぱり登録したのに声がかからないというのは、せつかく力になりたいと手を挙げてくださった市民の思いが置き去りになってしまいます。とてももったいないことであるし、登録してくださった市民の方々に失礼に当たるのではないかと思います。

今のこの現状をどのように捉えていらっしゃいますでしょうか。

○市民環境部長 議員ご指摘のとおり、活用分野に偏りがあると認識してございます。ま

た、一度も活用のお声かけに至っておらず、登録者の方から協力できることはないのかという問合せをいただくこともございました。

まちづくりパートナー制度は、創設当初こそ多くの活用が見られましたが、近年では、各所管に対して活用を呼びかけてはいるものの、十分に活用されていないのが現状でございます。制度創設から15年以上が経過しており、運用面での工夫が必要であると感じております。

以上でございます。

○清川希代子 活用に偏りがあること、そして声がかからないという登録者の方の声が市にも届いているということを率直に認めていただき、まずその点は感謝申し上げます。

ぜひとも市民の皆さんと一緒にまちづくりを進めたいという思いがございますので、これを改善して香芝のまちづくりを市民の皆さんと共にしていただけたらと思います。

続きまして、まちづくりパートナー制度は本来、香芝のために力を貸したいと自ら手を挙げてくださった市民の専門性を生かすための大切な仕組みでございます。カッシーグッズの製作のように、市の魅力発信につながる事業こそ、市民のアイデアや声を企画段階から積極的に取り入れるべきだと考えております。これらの事業において、まちづくりパートナー制度をより積極的に活用していくお考えはございますでしょうか。

○市民環境部長 事業の企画及び立案の段階から幅広い視点を取り入れることは、行政が事業を推進する上で重要であると認識してございます。事業の内容や目的に応じて、様々な役割でまちづくりパートナーが参画できる機会を設けるよう、制度の運用に努めていきます。

カッシーグッズの製作を含む市の魅力発信につながる事業については、まちづくりパートナーの中に観光、歴史の分野で協力が可能な方やイベント企画の経験を持っておられる方が登録されてございます。これらのまちづくりパートナーへの専門的な知識や多様な意見を生かして、協働して取り組んでいくことを検討してまいります。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。市民の力をちゃんと生かしたいという気持ちが伝わってまいりました。ぜひともカッシーグッズやサヌカイトのような魅力発信の取組の際には、その方々のまちづくりパートナー制度を活用してください。

今回もありがとうございました。職員の皆様、市長、ご答弁していただきましてありがとうございます。これからも市民と行政と一緒に香芝のまちづくりをしていただきたいと思います。

○清川希代子 以上で、清川希代子の代表質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（筒井 寛） 以上で、会派、日本維新の会、5番清川希代子議員の代表質問を終わります。